

都市部の高齢化対策に関する検討会

横浜市

～2025年に向けての横浜市の取組～

平成25年5月20日
横浜市健康福祉局長
岡田 輝彦

■ 横浜市の人口・高齢者の状況

(平成25年3月末現在)

○横浜市全体

人口総数 3,704,046人

高齢者計 790,000人

65歳～74歳 427,403人

75歳以上 362,597人

高齢化率 21.3%(前年比+1.0%)

介護保険被保険者数(1号被保険者)

被保険者 788,968人

認定者数 130,389人(出現率 16.53%)

■ 介護サービスの状況

施設ニーズの高い高齢者のための施設整備を進める一方、在宅生活を支援するため、地域密着型サービス提供も進めています。

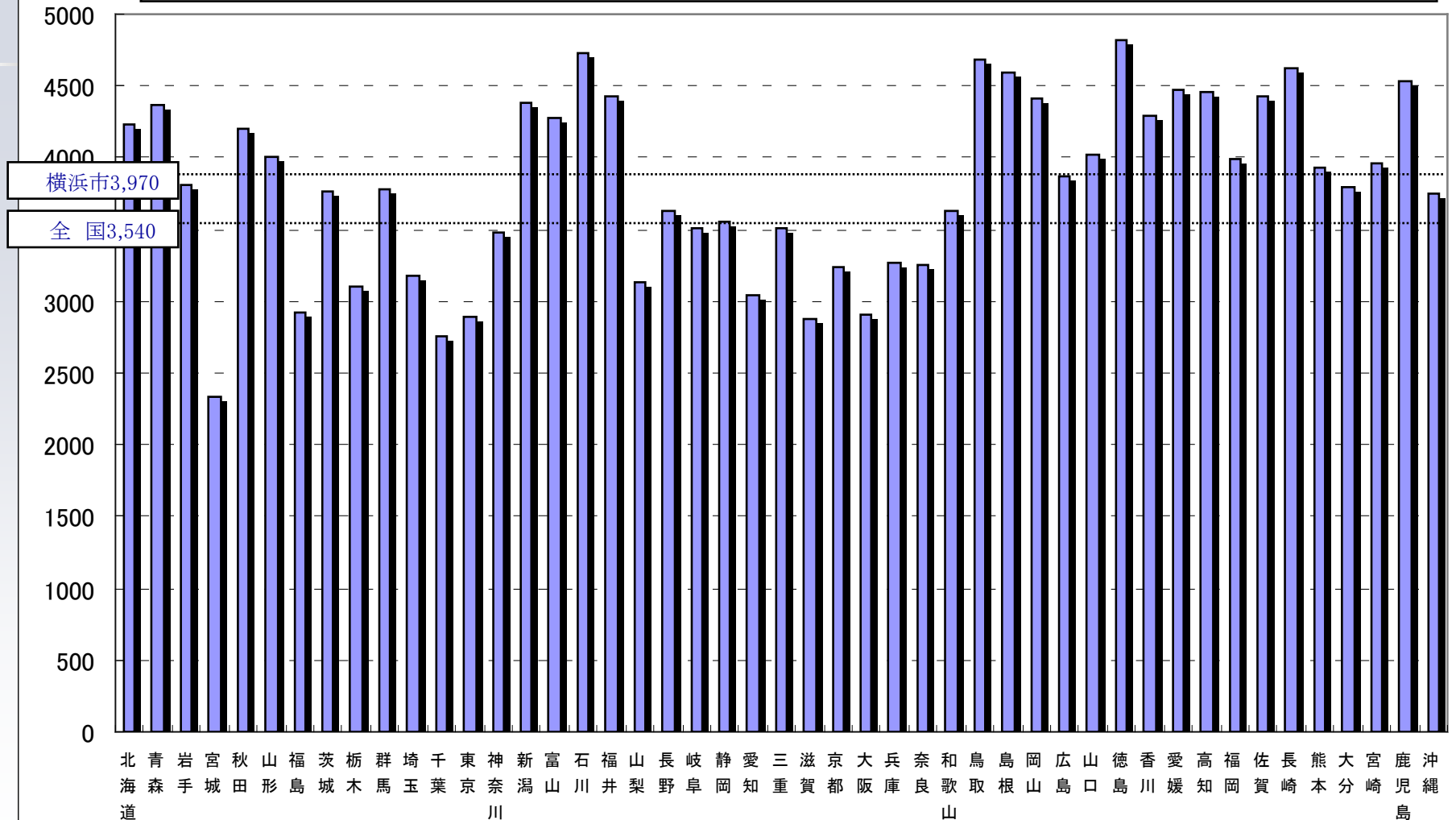
	平成25年4月1日現在	
特別養護老人ホーム	施設数	139
	定員数	13,897
特定施設 (介護付有料老人ホーム)	施設数	135
	定員数	10,505
認知症対応型共同生活介護	事務所数	287
	定員数	4,840
小規模多機能型居宅介護	事務所数	101
	定員数	2,488

参考：特別養護老人ホーム入所待機状況（平成24年10月1日現在）

入所待ち者 5,152人（要介護1～2 1,413人、要介護3～5 3,789人）

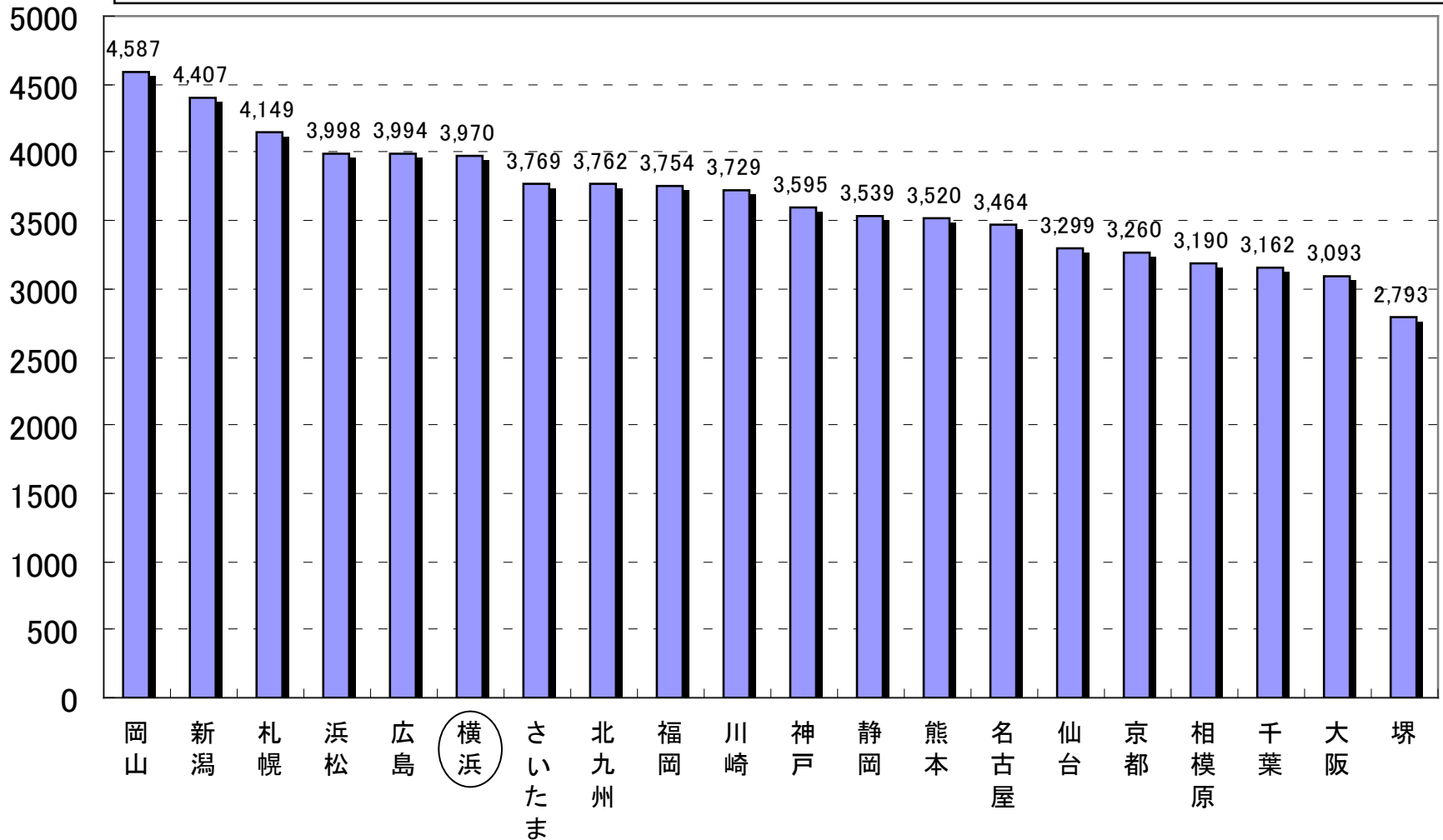
【都道府県】65歳以上人口10万人に対する施設・居住系サービス
(特養、地域密着型特養、老健、介護療養型、GH、特定施設)の利用者数(H23.10.1現在)

全国平均3,540人に対し、横浜市は3,970人



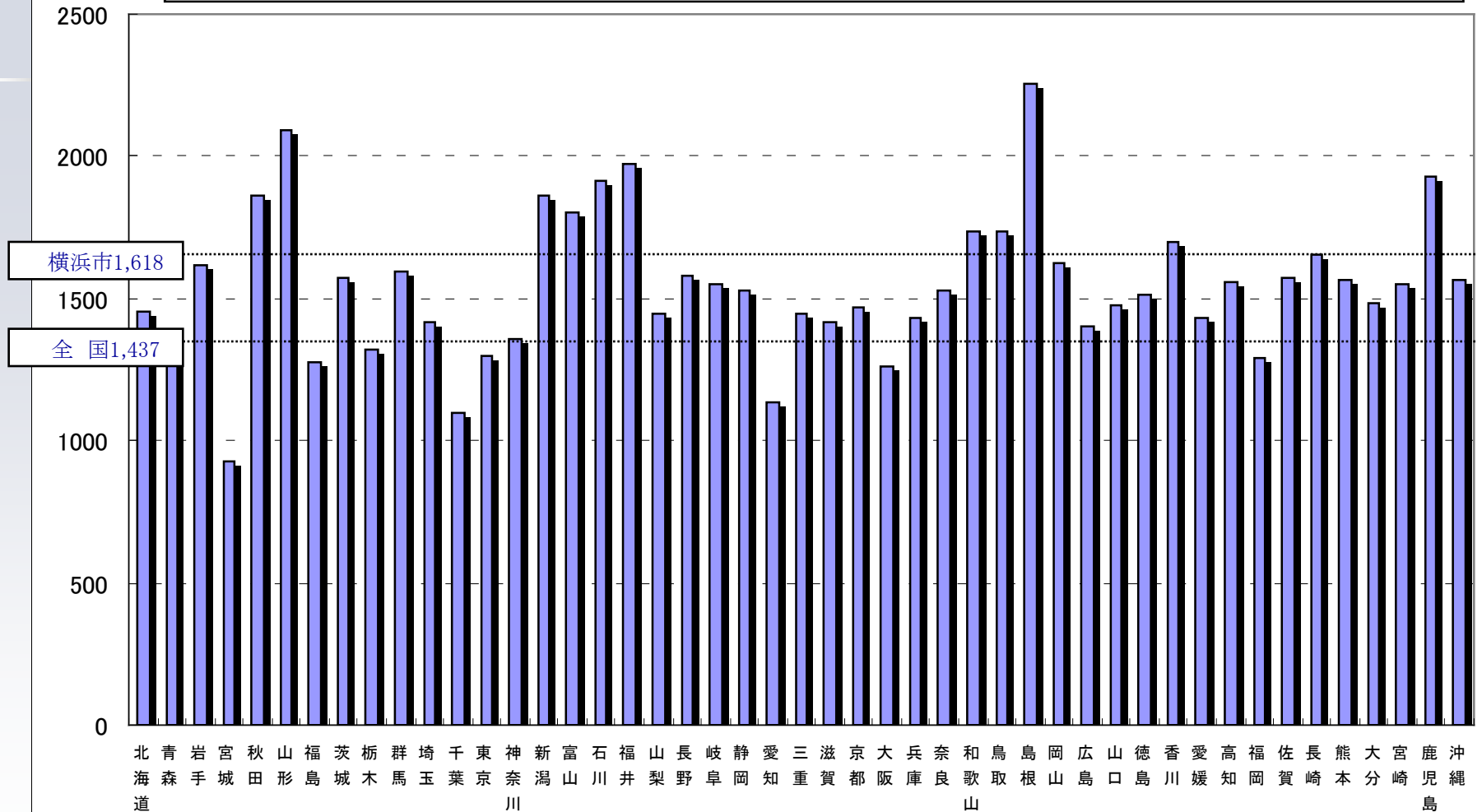
【政令市】65歳以上人口10万人に対する施設・居住系サービス（特養、地域密着型特養、老健、介護療養型、GH、特定施設）の利用者数（H23.10.1現在）

政令市平均3,643人に対し、横浜市は3,970人となっており6番目



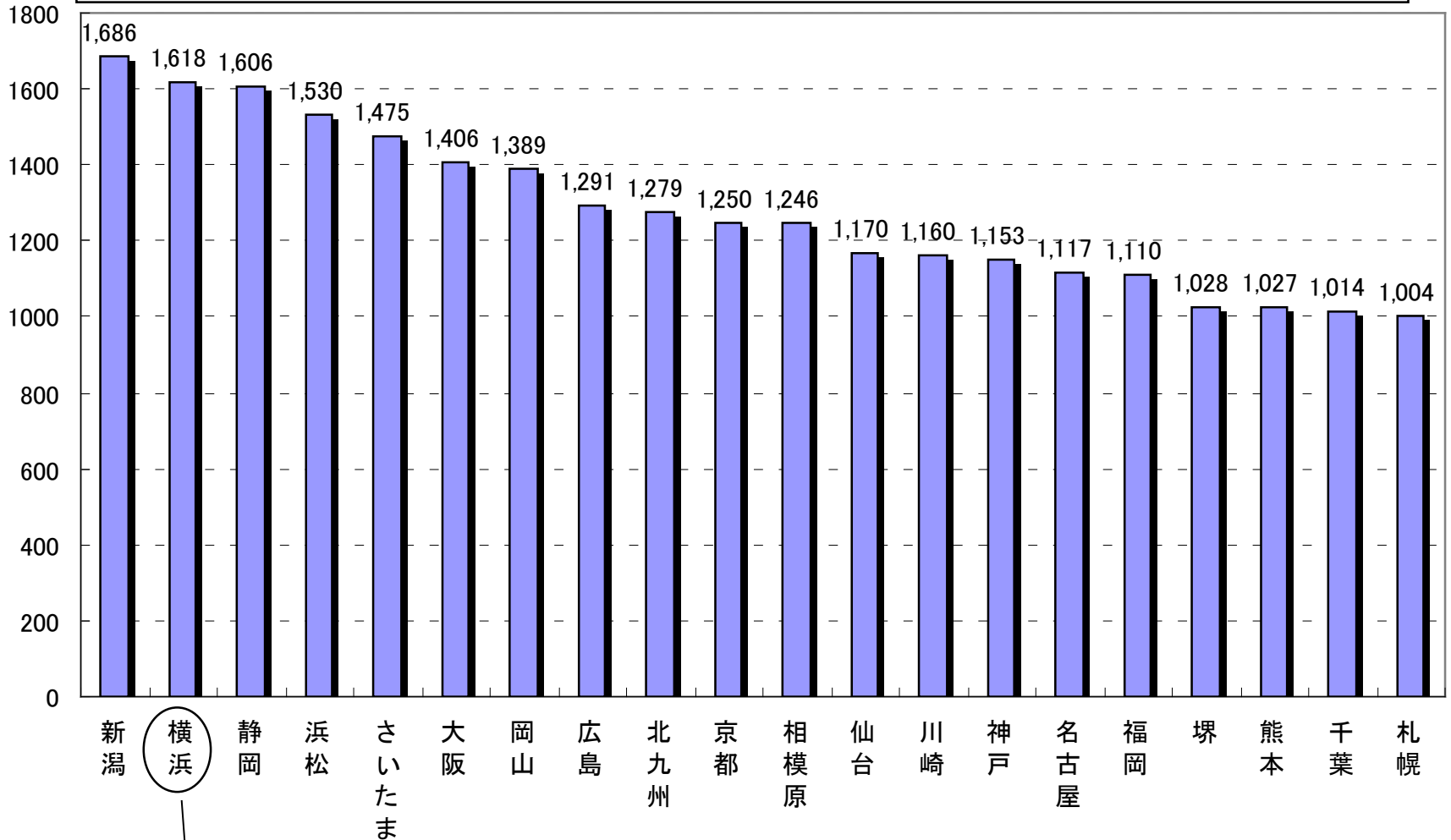
【都道府県】65歳以上人口10万人あたりの特別養護老人ホーム定員数(H23.10.1現在)

全国平均1,437人に対し、横浜市は1,618人



【政令市】65歳以上人口10万人あたりの特別養護老人ホーム定員数
(H23.10.1現在)

政令市平均1,297人に対し、横浜市は1,618人となっており2番目

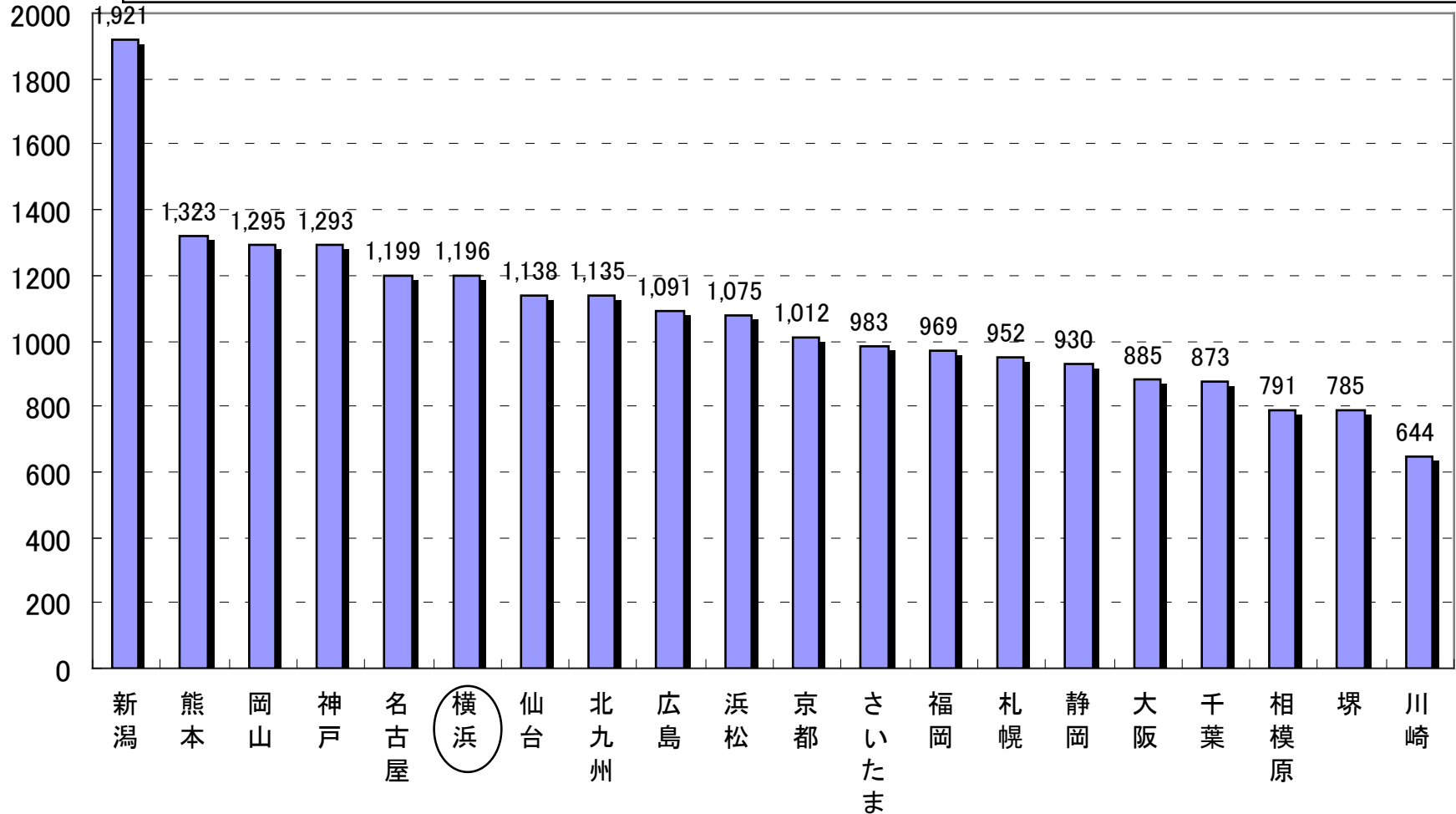


H25.5.1現在 定員数:13,997名 うちユニット型6,765名(48.3%)

※厚生労働省「平成23年介護サービス施設・事業所調査」及び各市人口統計に基づき作成

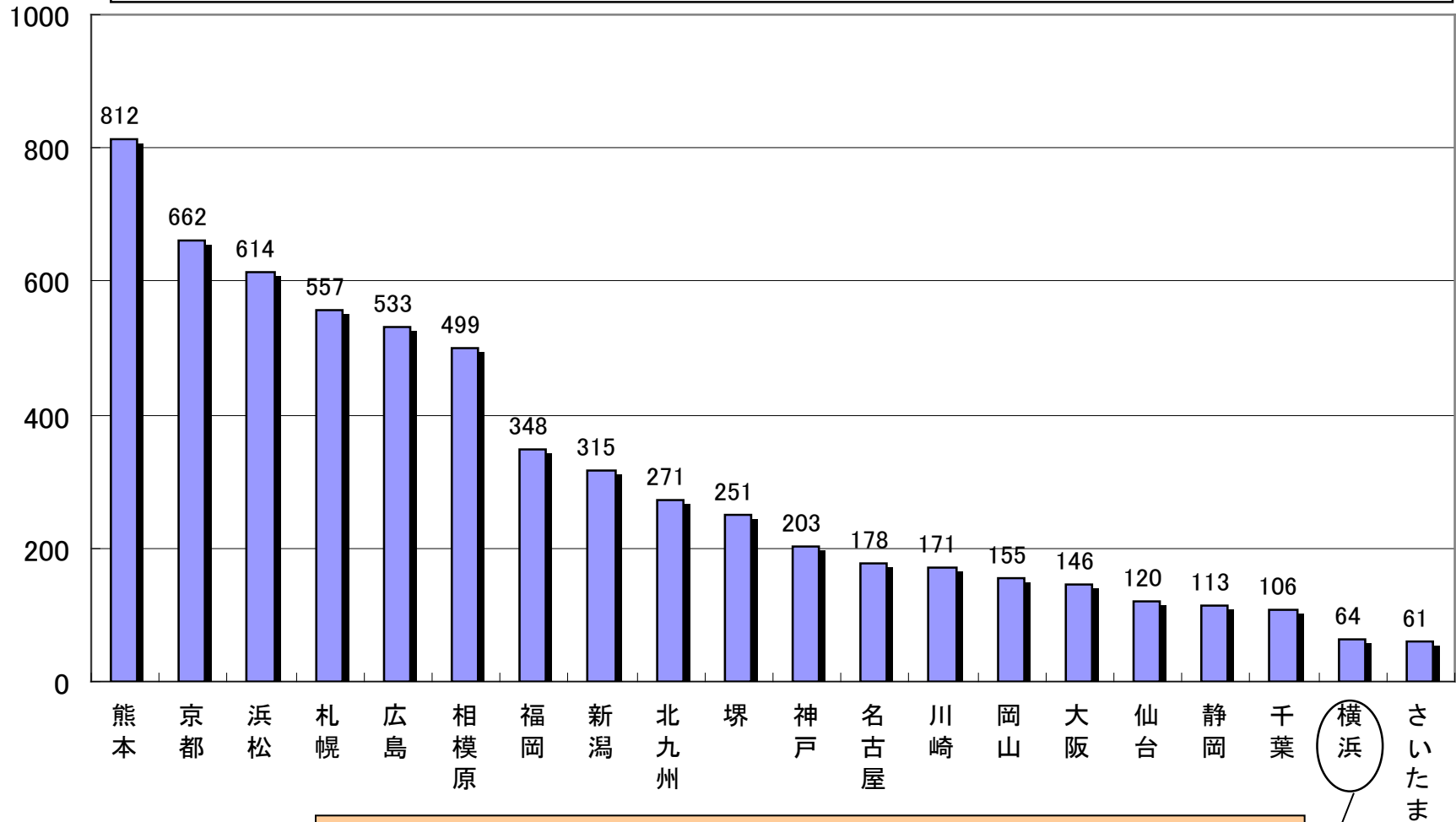
【政令市】65歳以上人口10万人あたりの介護老人保健施設定員数
(H23.10.1現在)

政令市平均1,074人に対し、横浜市は1,196人となっており6番目



【政令市】65歳以上人口10万人に対する介護療養型医療施設定員数
(H23.10.1現在)

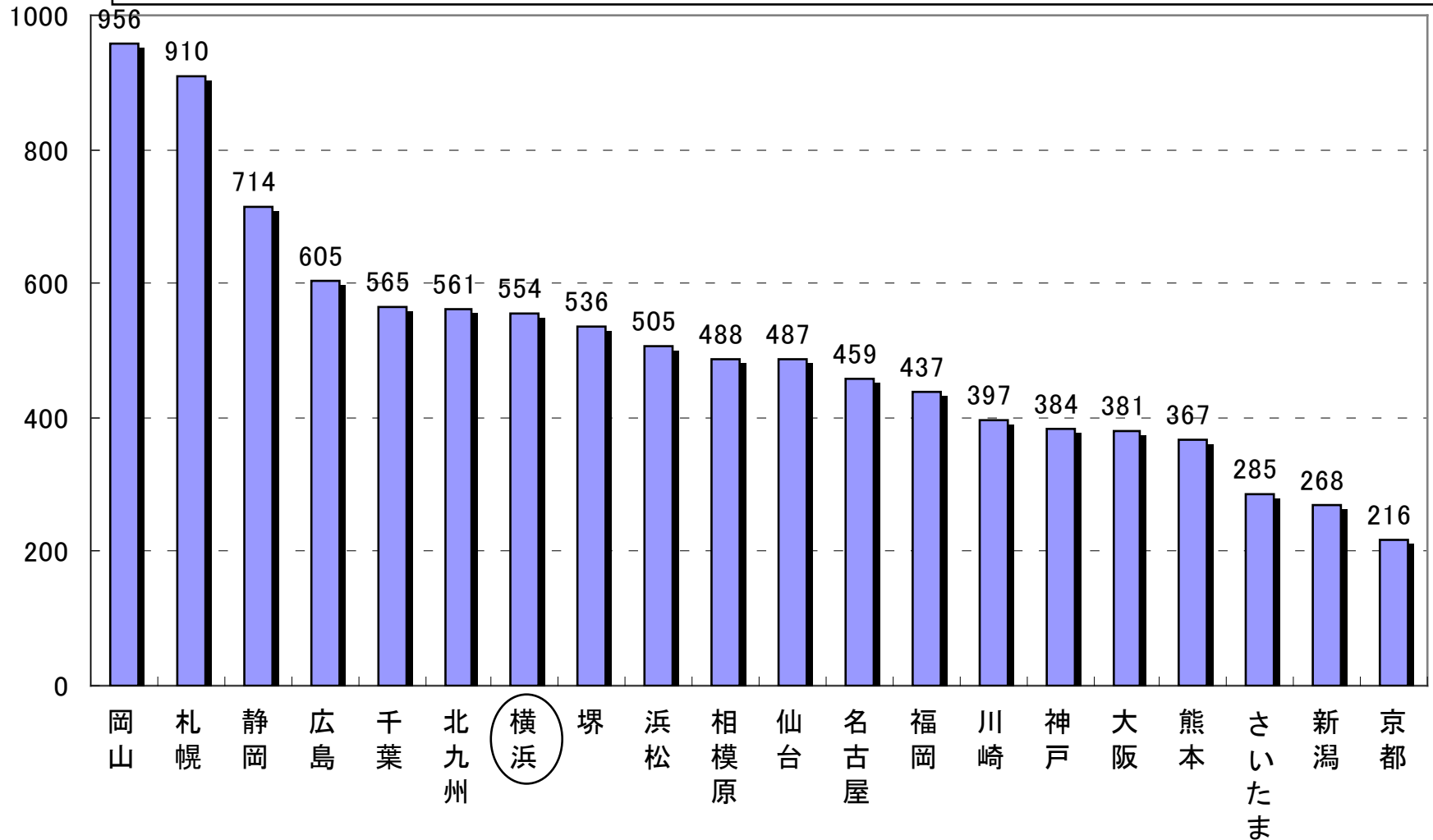
政令市平均276人に対し、横浜市は64人となっており19番目



特別養護老人ホームにおける医療ニーズの高い高齢者の受入れも進んでいる

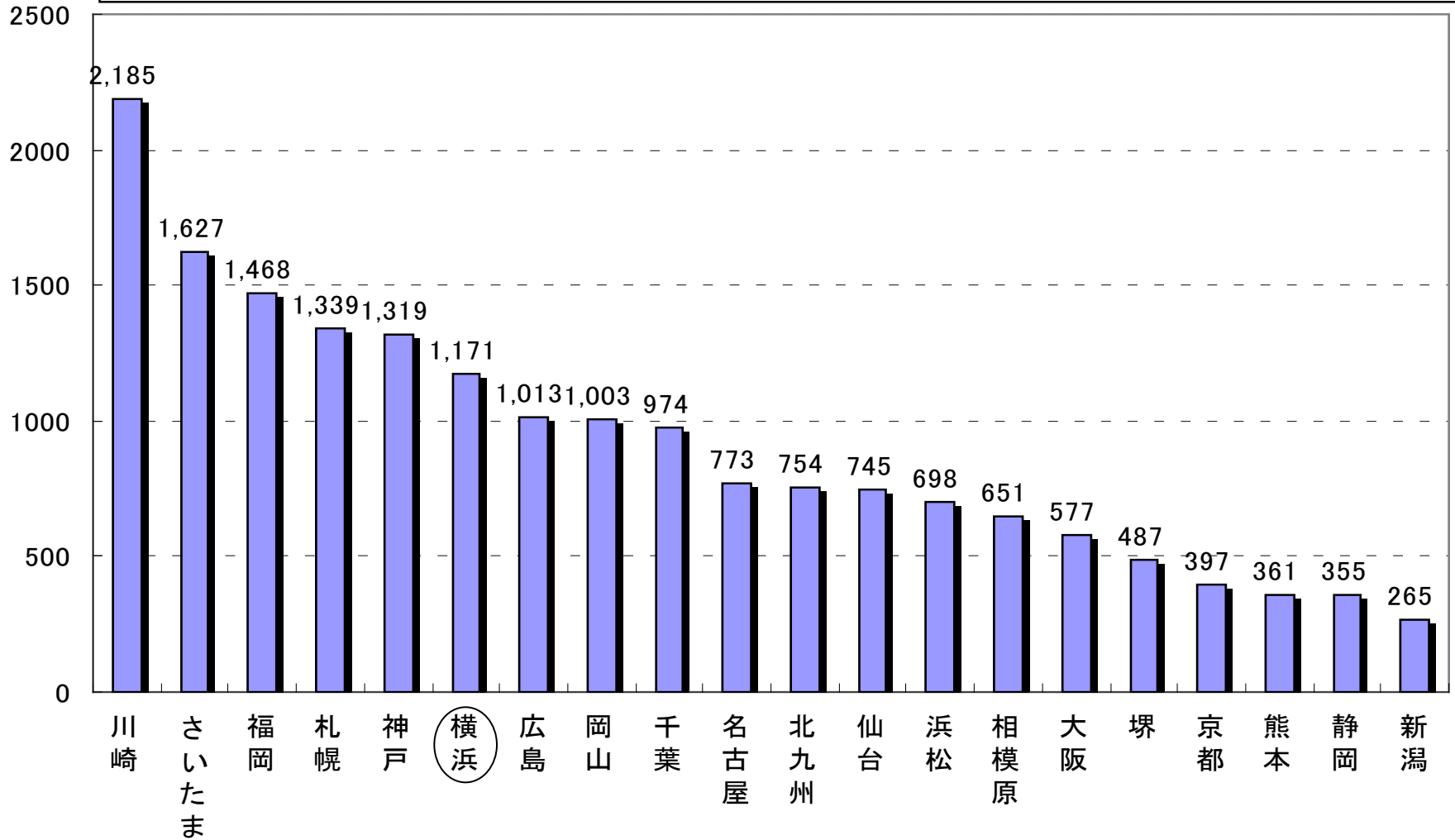
【政令市】65歳以上人口10万人あたりのGH定員数（H23.10.1現在）

政令市平均497人に対し、横浜市は554人となっており7番目



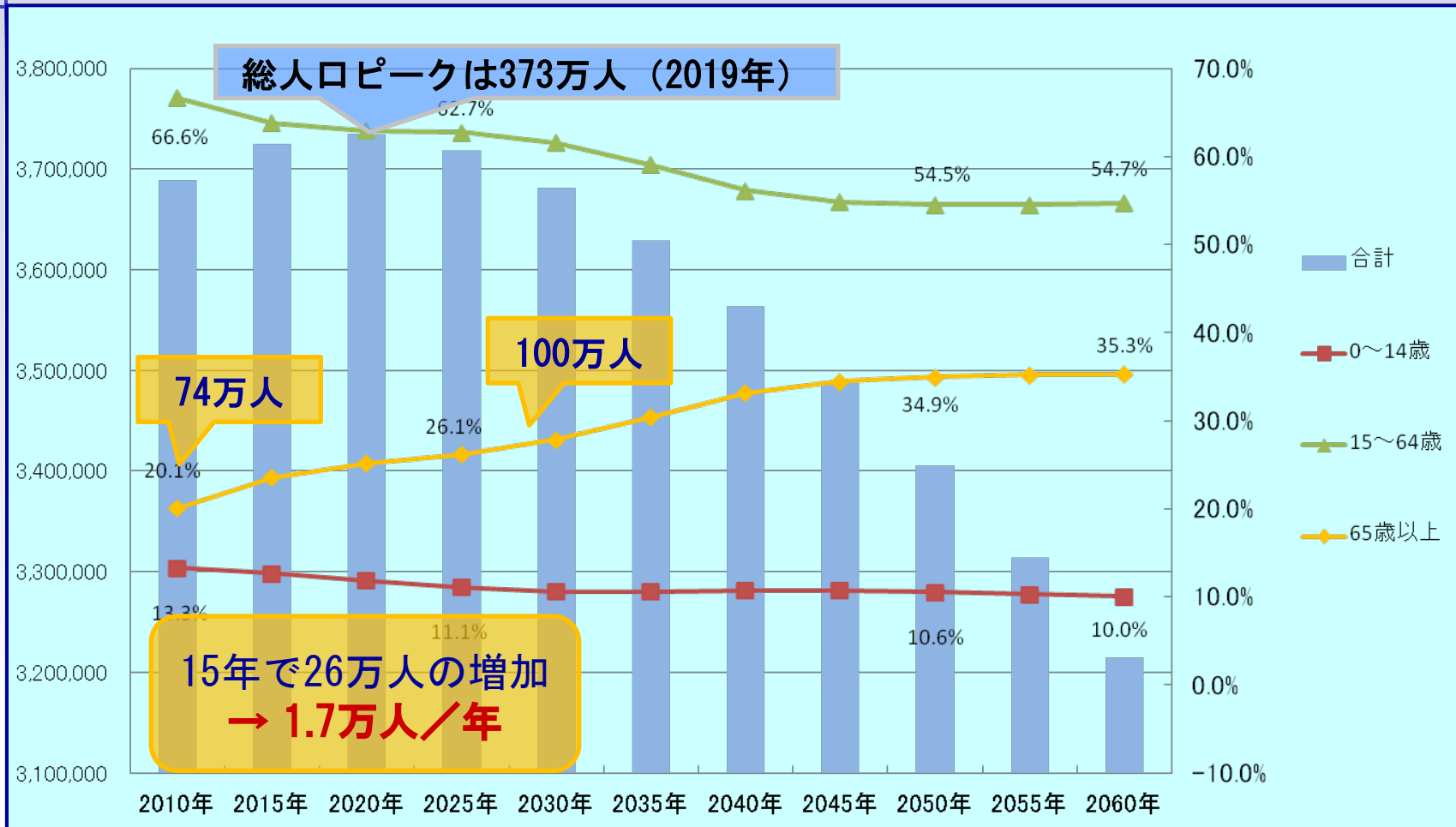
【政令市】65歳以上人口10万人に対する特定施設入居者生活介護定員数(H23.10.1現在)

政令市平均947人に対し、横浜市は1,171人となっており6番目



■ 将来の横浜市の姿

横浜市将来人口推計(平成22年国勢調査結果最新版)



※2040年以降は参考値

2025年の横浜市は…

2012年と2025年を比較すると、要介護認定者は1.68倍

	2012年(平成24年) 実績	2025年(平成37年) 見込み	変化指数 2025年/2012年
人口	3,701,889人	3,717,810人	1.00
高齢者数	786,938人	971,554人	1.23
高齢化率	21.3%	26.1%	—
前期高齢者数	423,408人	385,598人	0.91
前期高齢者占有率	53.8%	39.7%	—
後期高齢者数	363,530人	585,956人	1.61
後期高齢者占有率	46.2%	60.3%	—
認定者数(2号含む)	130,061人	218,200人	<u>1.68</u>
認知症高齢者数 (Ⅱ以上)	68,414人	124,359人	1.82
認知症高齢者率	9.1%	12.8%	—

※認知症高齢者は平成23年度実績

■ 横浜市を取り巻く状況

横浜市社会福祉審議会答申

「横浜における持続可能な福祉社会の構築について」から

- 1 年齢構成の変化
急速に進む高齢化、生産年齢人口の減少
- 2 家族の変化
単身又は夫婦のみ高齢者世帯の増加
- 3 地域の変化
市民活動への参加意欲の減少、隣近所との付き合いの希薄化
- 4 技術・コミュニティの変化
ICTを活用したコミュニケーションの活発化
- 5 雇用の変化
失業率の高止まり、女性労働力の増加、非正規雇用との賃金格差
- 6 行政の変化
社会保障費は一貫して増加し財政は硬直化、行政需要の増大

■ これからの最大のテーマ

「高齢化(人口減)」と「財政困窮化」の問題



医 療 医療費、国民健康保険財政



介 護 介護保険財政



生活困窮 生活保護費

全て自治体財政（経済）と大きく関わる課題
その財政を誰が支えるのか？

■ これからの高齢化対策は？

- ① 社会保障費の増大を抑止
- ② 高齢者をサービスの受け手から担い手に
- ③ 在宅生活支援の充実

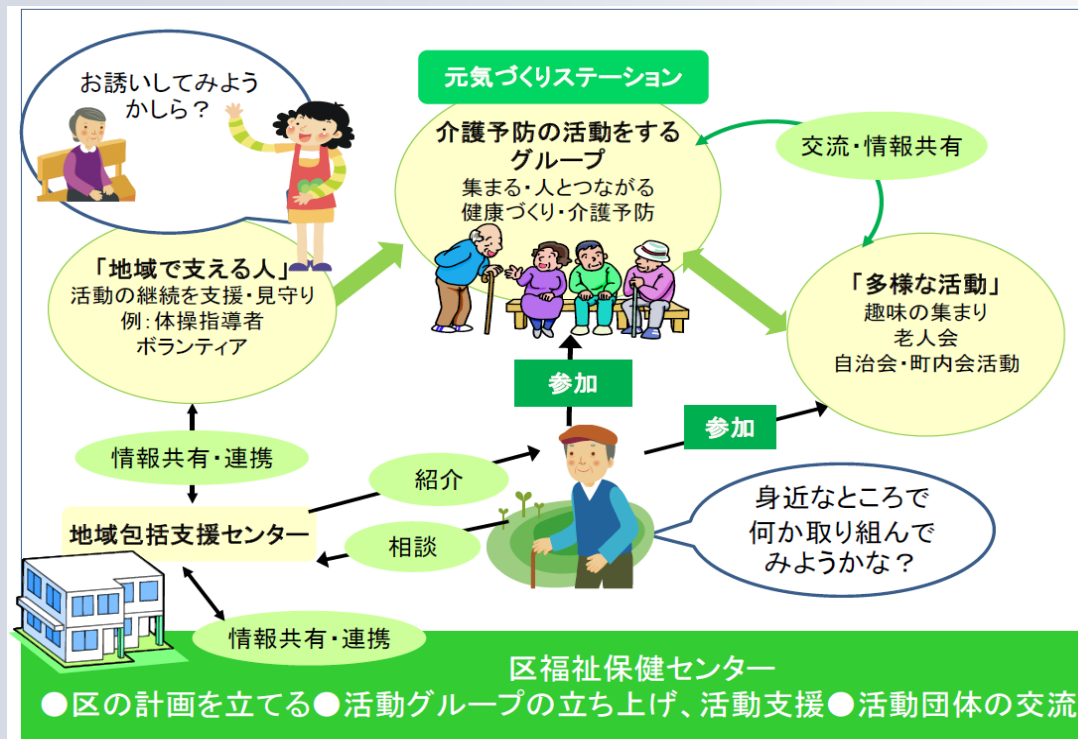


- 健康づくり・介護予防
- 介護支援ボランティアの推進
- 小規模多機能型居宅介護の拡充
- 24時間対応型サービスの充実

取組① 効果的な健康づくり・介護予防



地域づくり型介護予防事業 行政と市民のパートナーシップによる「元気づくりステーション」を高齢者の身近な場所で展開します。



取組② 「さあ 歩こう ヨコハマ。」 ウォーキングで健康づくりに取り組もう！

横浜市全域で展開する「ウォーキング」
をテーマとした健康づくり運動です。



市内全域で「歩く」ムーブメントを起こします。

多くの市民の皆さまが日々継続して実践できる「ウォーキング」
に重点を置きます。

4月27日（土）のキックオフイベントを皮切りに市内大型ウォーキング
イベントや各区で実施する健康づくり関連イベントと連携したPRを行います。

イベント会場ではウォーキングお役立ちグッズのプレゼントや、
「100万人の健康づくり宣言」をしていただくコーナーを設け、宣言い
ただいた方の写真を撮影し公式ホームページへ掲載するなどして
健康づくりの気運を盛り上げます。

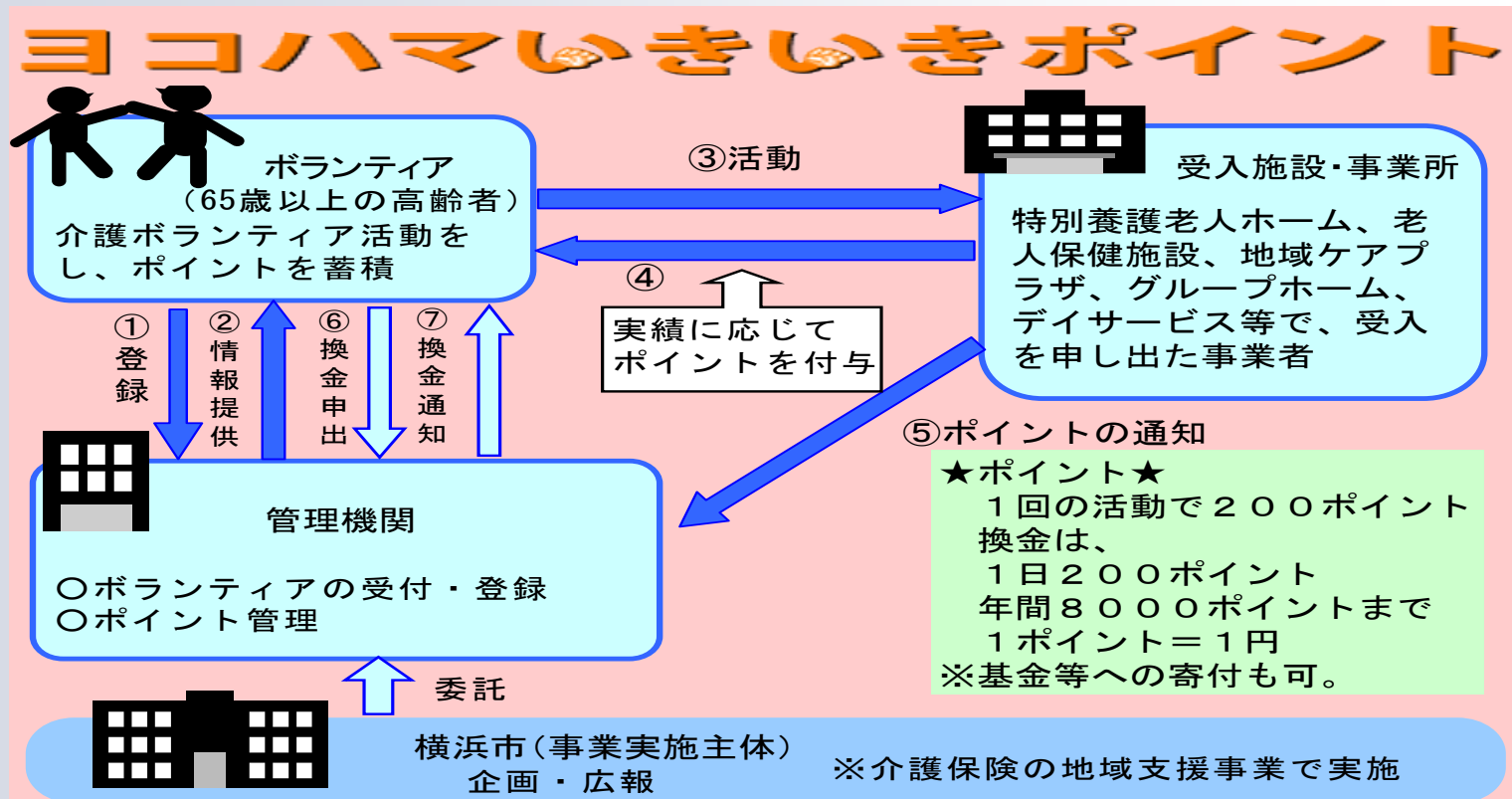
公式ホームページ：<http://enjoy-walking.city.yokohama.lg.jp/>

取組③ 介護支援ボランティアポイント事業(ヨコハマいきいきポイント)

ボランティア活動を行うことで、本人の健康増進や介護予防、生きがいがづくり
登録者数: 7,430人(高齢者の約100人に1人) 受入施設: 313施設



いきいき
案内人
健康ほうし君



活力ある超高齢社会を築くため
長期的な視点で、予防・自立の観点から
先取的施策を展開していきます。



御清聴ありがとうございました。